



# 平成30年7月期第2四半期 決算説明資料

平成30年3月

貴金属表面処理加工分野の  
リーディングカンパニー  
**株式会社 山王**  
(3441・東証JQS)

# 平成30年7月期 第2四半期業績

平成30年7月期 通期見通し

中長期事業戦略及びその動向

新規技術開発の動向

ご参考（会社概要等）

---

目次

## 平成30年7月期 2Qハイライト：

## 旺盛な需要を踏まえて増収増益を達成

売上高 41.32億円



+13.5%

国内で車載・産業機器向けのみならず  
主力の通信、民生品の新製品も好調

営業利益 1.05億円



+0.44億円

付加価値高い製品構成比増加  
(プロダクトミックス変化)で粗利改善  
コスト(物流費・人件費など)増も増益

市場環境の好調続く中、  
積極受注・生産管理強化で増収と原価率低下を実現  
営業利益は増加

# 平成30年7月期2Q決算概要

- ▶ 売上高：旺盛な需要を受け2けた増（+13.5%）
- ▶ 営業利益：増収と原価率改善で増益（+71.1%）
- ▶ 四半期純利益：今2Qは、特別利益を計上せず

（単位：百万円）

	H29/7 2Q	H30/7 2Q			
			対前年同期比	期初計画	対計画差異
売上高	<b>3,639</b>	<b>4,132</b>	+493 +13.5%	<b>3,750</b>	+382
営業利益	<b>61</b>	<b>105</b>	+44	<b>35</b>	+70
経常利益	<b>92</b>	<b>86</b>	△6	<b>20</b>	+66
親会社帰属 四半期純利益	<b>159</b>	<b>73</b>	△86	<b>5</b>	+68

## 二ケタ増収で人件費・物流費増だが利益率が改善

▶ 売上原価：受注増加で稼働率上がり原価率改善

▶ 販売管理費：繁忙で物流費・人件費は増加

(単位：百万円)

	H29/7 2Q		H30/7 2Q		前年同期比 (%)
		構成比 (%)		構成比 (%)	
売上高	<b>3,639</b>	100.0	<b>4,132</b>	100.0	+13.5 P
売上原価	<b>2,953</b>	81.1	<b>3,307</b>	80.0	△1.1 p
売上総利益	<b>686</b>	18.9	<b>824</b>	19.9	+1.1 p
販管費	<b>624</b>	17.2	<b>719</b>	17.4	+0.2 p
営業利益	<b>61</b>	1.7	<b>105</b>	2.5	+0.8p

# 四半期売上推移：安定成長基調へ

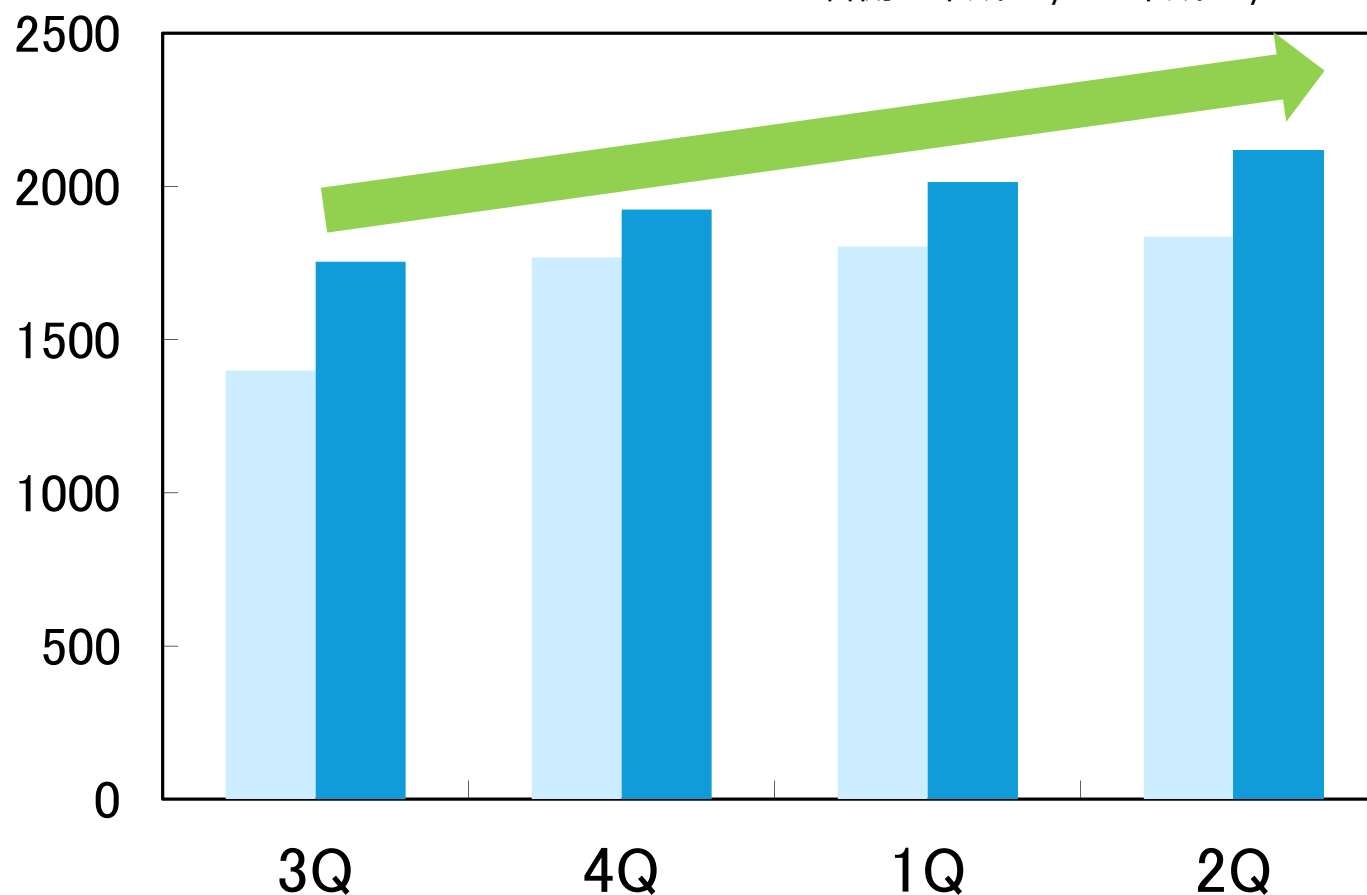
## ▶ 増収基調傾向続く

### 受注増が着実に進展

売上高(百万円)

左側：平成28/7・平成29/7

右側：平成29/7・平成30/7



# 地域別業績動向：国内が黒字化

(前年同期比)

**日本**

売上高2,754百万円 (+14.1%) 営業利益75百万円

(2年連続で二ケタ増収・黒字化)

電子部品需要の多様化と新製品投入に併せて受注増  
(主力の通信・民生品+車載・産業機器向け)

**中国**

売上高 761百万円 (+25.0%) 営業損益 △10百万円

(増収・赤字幅減少)

環境規制強化による日本品質への評価向上に合わせた積極的な営業活動が奏功、増収・収益性が改善

**フィリピン**

売上高 625百万円 (+0.8%) 営業損益 △10百万円

(微増収・赤字計上)

受注は堅調だが、一部製造工程に歩留まり低下が発生、収益性が低下

# バランス・シート

- ▶ 株主資本比率：45.4%（四半期純利益回復基調続く）
- ▶ その他包括利益累計額：保有有価証券の影響等で増加
- ▶ 純資産額 5,292百万円（自己資本比率55.7%）

（単位：百万円）

	H29/7 末	構成比 (%)	H30/1 末	構成比 (%)	増減額
株 主 資 本	4,242	46.8%	4,315	45.4%	+73
資本金・資本剰余金	1,833	—	1,833	—	—
利益剰余金	2,534	—	2,608	—	+73
その他の 包括利益累計額	880	—	976	—	+96
純 資 産 合 計	5,122	56.6%	5,292	55.7%	+170



# キャッシュ・フロー

▶ 営業キャッシュ・フローは、積極受注の影響続く\*1

▶ 有形固定資産支出増約1億円、長期借入金増約3億円\*2

(単位：百万円)

	H28/8-H29/1	H29/8-H30/1	増減額
現金・現金同等物 期首残高	2,483	2,347	△136
営業活動キャッシュ・フロー	△149	△148	+1
投資活動キャッシュ・フロー	34	△194	△228
フリー・キャッシュ・フロー	△115	△342	△227
財務活動キャッシュ・フロー	△7	177	+184
現金・現金同等物 期末残高	2,370	2,189	△181

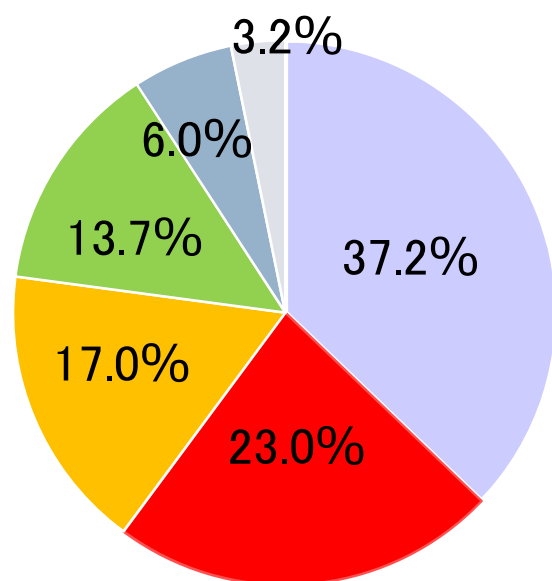
\*1 事業拡大期にめっき主要材料である金調達と売掛金増加が同時進行する傾向あり

\*2 金融機関より、一定額の長期借入金枠を確保

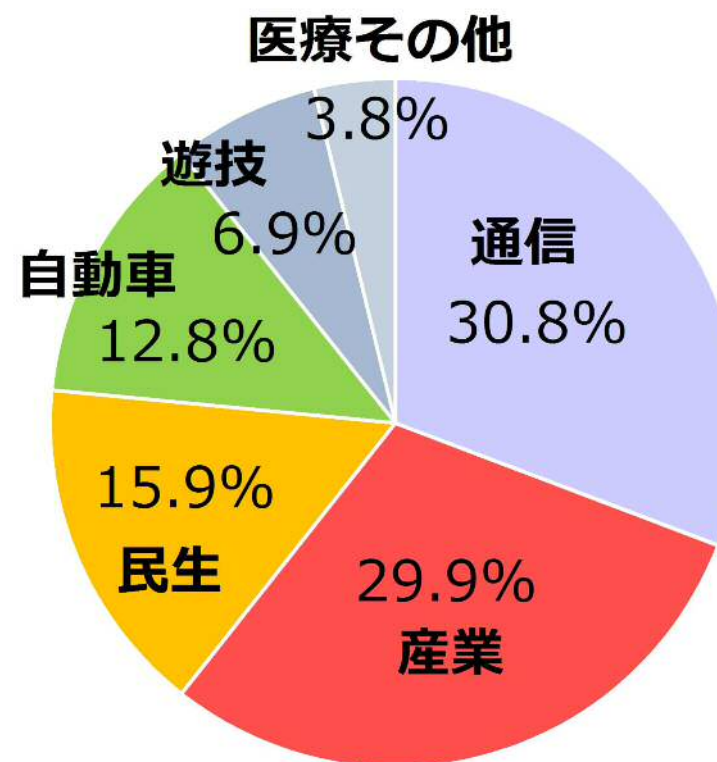
## 用途別売上構成の推移（国内）

▶ 通信は主力だが、産業・民生系中心に用途の多様化進む

H29/7 2Q



H30/7 2Q



## 設備投資・研究開発費

- ▶ 事業規模拡大へ期初計画どおり積極設備増強を展開
- ▶ 減価償却費用も連動して増加へ
  - ▶ 国内：プレス設備増強、めっき新ライン追加投資など
- ▶ 研究開発体制は予定通り、担当人員（人件費）を増加へ。

（単位：百万円）

	H30/7/2Q 実績	H30/7 見込	進捗率 (%)	前期比 (%)
設備投資額	227	750	30.3	+77.3
減価償却費	109	369	29.5	+57.9
研究開発費	47	70	67.1	+56.6

平成30年7月期 第2四半期業績  
**平成30年7月期 通期見通し**  
中長期事業戦略及びその動向  
新規技術開発の動向  
ご参考（会社概要等）

---

目次

## 足元の事業環境

主要取引先である電子部品メーカーからの受注が順調

## 今下半期の事業に対する見方

めっきは通信向けだけでなく、産業機械・車載など用途多様化もあり、今後も安定受注が見込める見通し

**通信分野での生産調整の可能性を意識しながらも  
事業規模拡大によるコスト上昇を吸収し、  
期初予定通りの増収増益を見込む**

# 平成30年7月期 業績見通し

## 期初想定增收・営業増益計画を据え置き

▶ 売上高 : 78億円 (+6.6%)

▶ 営業利益 : 90百万円 (+81百万円、償却費増等を見込む)

▶ 当期損益 : 25百万円 (特別損益見込まず)

(単位 : 百万円)

	H29/7	H30/7 期初計画	変化率 (%)	増減
売上高	7,317	7,800	+6.6	+483
営業利益	8	90	+984.7	+81
経常利益	23	55	+133.1	+32
親会社帰属 当期純利益	68	25	△63.3	△43

## 資本（配当）政策について

### ▶ 平成30年7月期：成長投資優先で「無配」を予定

平成30年7月期 2 Q段階で収益力は着実に改善、  
平成30年7月期は、予定通り黒字化想定

事業価値改善・収益体質傾向は定着

継続的・持続的に収益を拡大する体質へ  
事業規模拡大のための設備投資と  
組織力アップへ付加価値向上（社員の待遇向上など）を最優先

さらに収益力が回復次第、復配を視野へ

平成30年7月期 第2四半期業績  
平成30年7月期 通期見通し  
**中長期事業戦略及びその動向**  
新規技術開発の動向  
ご参考（会社概要等）

---

目次



## 山王の強みと課題

60余年の歴史で培われた  
国内主要電子部品メーカーとの協力関係がある

取引量と実績

情報力

安定した技術にもとづく信頼性

他方、最終ユーザーの需要動向に左右されやすい  
取引量の安定化・受注単価下落抑制が課題

## 好転する事業環境：めっき需要は拡大見込み

### 電子部品の需要が飛躍的に拡大している (キーワード：IoT、AI)

スマホなど通信機器の更新需要  
自動車の電子化  
民生品需要

+

IoTの普及（家庭及び工場）  
データ量の爆発に伴うAIの進化  
工場の自動化（ロボット化）

電子部品メーカーからのめっき需要が、  
スマホ向けから車載・産業機械向けなどに拡大

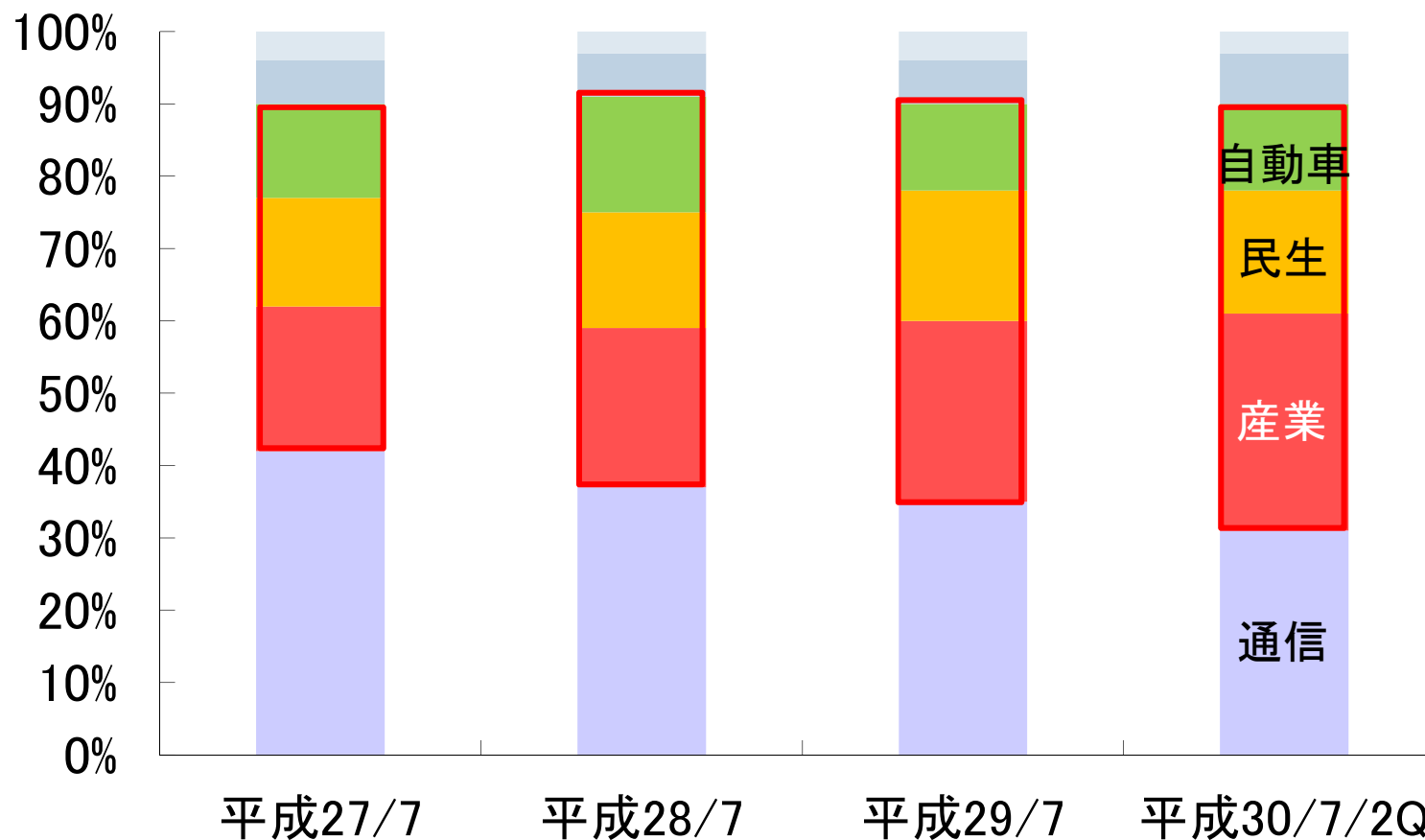
めっき需要が安定的に見込めるようになった

# 用途の多様化：業界に構造変化の兆し

▶ スマホ・タブレット需要に左右されない安定受注を確保

通信から産業機器、民生、自動車などへ  
用途が多様化・分散化

売上構成比



# 営業・生産・技術の連携で社内資源配分効率化

需要構造の変化・顧客のニーズ情報を徹底分析し方針決定

方針遂行に向け社内のベクトルを統一

営業部門

- ・「ブランド」の再強化
- ・現場ニーズの把握

生産部門

- ・生産能力を意識



技術部門

最適な生産販売計画→売上の最大化・原価の抑制

# 営業面の取り組み：「山王ブランド再強化」を推進 20

## 当社の課題：

スマホなど特定需要に依存する収益体質からの脱却

永年の信頼・実績を踏まえて

営業活動にて「めっきと言えば山王」を改めて浸透

「お客様から頼られる山王」が「見える化」へ

新製品獲得件数  
前年同期122%

平均月商10百万円以上  
前年同期+4社

新製品売上割合  
前期8.0%⇒16.9%に

# 国内の生産体制強化は順調に進捗

国内：旺盛な需要に対応し、生産性強化、  
プレス工場の増設等、受注体制を強化し売上を拡大

(福島県)  
東北工場



+

(神奈川県)

鈴川工場



秦野工場



東北工場へ新設備を導入



①量産加工体制強化

②微細化対応

稼働率UPと併せ生産能力増強

## KPI（主要業績評価指標）による進捗管理状況

▶ 操業度

○

稼働日・シフト ↑

期初計画比  
想定以上:◎  
予定どおり:○  
想定以下:△

▶ 稼働率

○

稼働時間 ↑

売上高（平成30年7月期予想：78億円、+6.6%）

（平成30年7月期2Q実績：41億円、進捗率53%）

▶ 売上対人件費

◎

売上 ↑ 人件費 →



▶ 納期遵守率

△

遵守率 ↑ 納期短縮 ↓

営業利益（同上：90百万円、+82百万円）

（平成30年7月期2Q実績：105百万円、進捗率117%）

▶ 不良率

不良経費 ↓

○

# 中期成長目標のローリング: 現状維持

**2Qの堅調な決算を踏まえ、**  
**平成32年7月期までの3年間の中期経営計画に変更なし**

## 平成29年7月期 (実績)

売上高                      73億円

営業利益                      8百万円  
  (0.1%)

親会社帰属  
当期純利益                      68百万円

## 平成32年7月期 (計画)

売上高                      年率5%成長

営業利益率                      3~5%目標

設備投資額  
(3年間累計)                      13億円



## **(補足) 新規技術開発の動向**

---

# 当社「新規要素技術開発」の概要

## 優位性・特徴





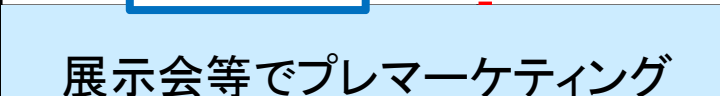
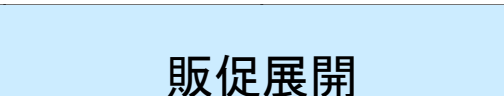




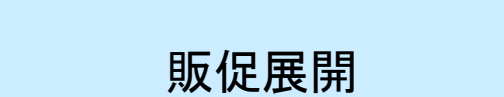
- ①当社めっき事業ノウハウを活かした周辺分野への進出
- ②東工大・産業技術総合研究所との「産学共同研究」

	テーマ1	テーマ2
	水素透過膜の開発	銀めっきアクリル粒子の実用化
概要	めっきの微細加工技術を活用した 高効率な水素製造部品	無電解Agめっきアクリル樹脂粒子を活用した 配線形成技術
用途	膜ユニットの開発 水素製造装置へ展開	微細回路の接続など 電子部材に大きな可能性
特許取得	平成29年1月	平成29年8月

# 実用化へ向けた進捗：「試作・適用評価」 進行中

## 「銀めっきアクリル粒子」「金属複合水素透過膜の開発」 適用評価にメドをつけるため取組み中

現在(平成30年3月)

テーマ	当事者	基礎技術開発	試作・適用評価・実用化・量産化
① 金属複合水素透過膜の開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当社</li> <li>・東工大</li> <li>・産業技術総合研究所</li> </ul>		  
	パートナー	 	
② 銀めっきアクリル粒子の実用化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当社</li> <li>・産業技術総合研究所</li> </ul>		 
	パートナー	 	

## ご参考（会社概要等）

---

# 会社概要

## めっき加工専門（表面処理加工＋精密プレス加工）

**事業内容**： 電子部品を対象とした貴金属表面処理加工・精密プレス加工、  
金型設計・製作

**創業**： 昭和33年8月

**代表者**： 代表取締役社長 鈴木 啓治

**所在地**： 本社：神奈川県横浜市港北区綱島東5-8-8

**資本金**： 9億6,220万円（平成29年7月末現在）

**売上高**： 73億1700万円（平成29年7月期）  
（連結）

**事業拠点**： 日本・中国・フィリピン

**従業員数**： 513名（平成30年1月末現在）  
（連結）

# ミッションとビジョン

**山王グループは表面処理で社会のインフラを支え、  
人々の暮らしの安全、便利な社会の実現に貢献します**

## **1. 携帯、スマートフォンが人々の暮らしを変える**

山王の「**表面処理技術**」は人の生活を豊かにする仕事

## **2. ウェアラブル端末、ゲーム機、遊技機が人々を笑顔にする**

山王の「**表面処理技術**」は人の心を楽しませる仕事

## **3. 自動車エアバッグ、衝突安全装置が人々の安全を守る**

山王の「**表面処理技術**」は人の命を預かる仕事

**貴金属表面処理加工技術 = 山王の「DNA」**

# 当社の特徴

## 1. 立地のバランス

日本の他、成長性の高いアジア（中国・フィリピン）に生産拠点がある

## 2. 「めっき」サプライチェーンが確立

プレス加工から表面処理まで一貫加工体制が確立  
上流から下流まで「めっきを取り巻くサプライチェーン」が確保され、顧客からの発注を受けやすい事業構造

## 3. 機動的かつスリム化した組織

主要顧客のニーズを探るために、「営業・技術・生産が一体化」

# 当社コア技術 = 表面処理が求められる理由

## 素材（金属）の性能を高める

### 通電性

電子部品には、半永久的に電気の流れが良いことが求められ、そのため「金めっき」が施される。

### 耐食性

金属にはサビ（酸化）が発生。サビには金が最も強いため、「金めっき」が、さらに性能向上の為に、「後処理（防錆処理）」が施される。

### 半田付性

電子部品をボードに実装する場合に、半田（鉛フリー）を活用。その際、ピンに「金めっき」または「半田めっき」されていると、スムーズかつ強固な装着が可能。

### 挿抜性

コネクタを接続する際にスムーズに挿入、抜去ができる方法として、「金めっき」及び「後処理」が最適。



# 国内外の生産体制 (国内3、海外2)

国内：旺盛な需要に対応し、生産性強化、  
プレス工場の増設等、受注体制を強化し売上を拡大

東北工場



鈴川工場



秦野工場



海外：拠点の重要性再認識で事業拡大へ

SPMC(フィリピン工場)

東南アジア戦略上の重要拠点  
品質管理強化に注力



山王電子(中国)工場

環境問題の深刻化で日本品質への  
評価高まり拡販へ



# 中国・フィリピンに海外生産拠点

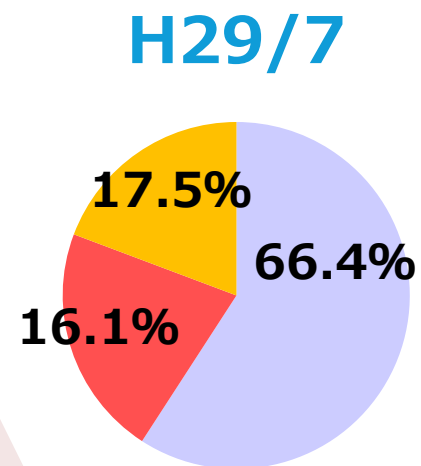
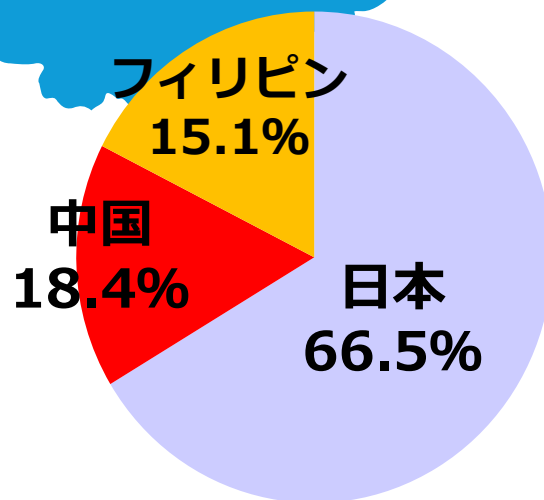
山王電子(中国・無錫)



SPMC(フィリピン)

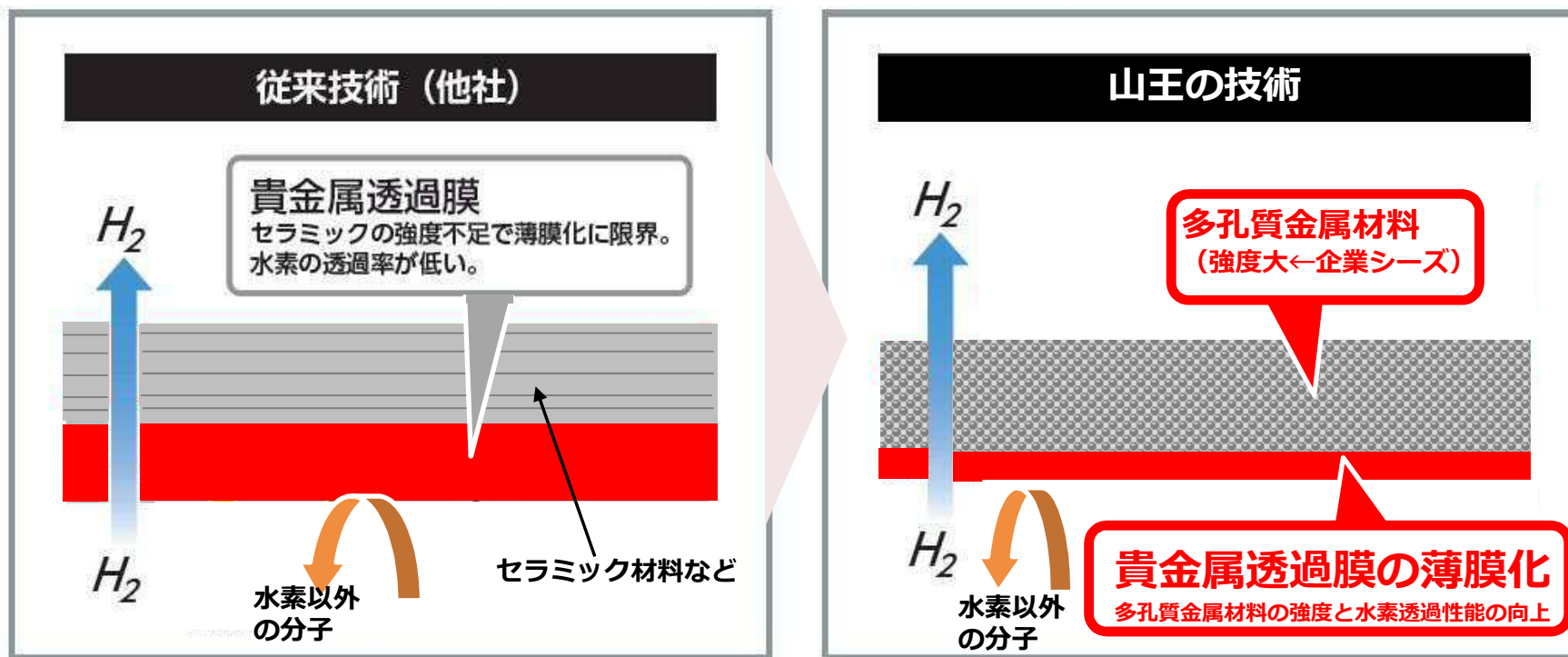


H30/7 2Q  
海外売上高 : 33.5%



# 新技術①高性能・高効率な「水素透過膜」

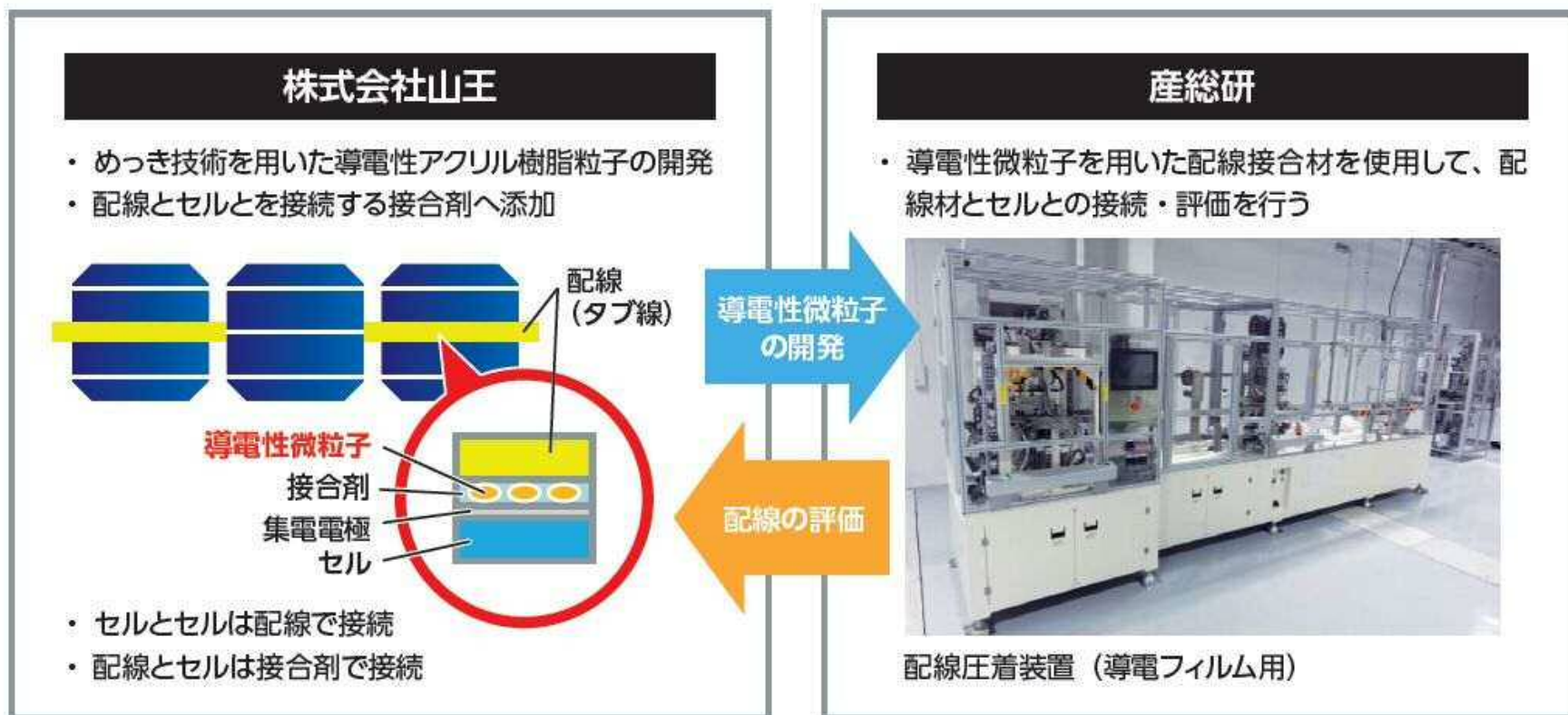
## 粛々と試作活動すすむ 東工大と共同で特許取得（平成29年1月）



「山王の高性能で低コストな金属複合水素透過膜」は、  
インフラへの適用だけでなく、**燃料電池自動車への搭載も可能。**  
水素社会実現に向け当社のめっき技術が貢献。

## 新技術②銀めっきアクリル粒子

### 「アクリル樹脂への加工技術」「無電解銀めっき加工技術」 軽さと導電性を備えた導電性粒子、平成29年8月に特許を取得



### 用途を 開拓

- ・ 薄く軽く熱に強く、半田接合がないので熱割れもしない
- ・ 接続相手の電極材料との相性も良く、軽くて安価
- ・ 低抵抗を実現し電気ロスを低減



# 平成30年7月期2Q決算説明資料

## 平成30年3月

本資料は、当社の事業及び業界動向について当社による現在の予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来の展望についても言及しています。

これらの将来の展望に関する表明は、様々なリスクや不確かさが伴っています。既に知られた、もしくははまだ知られていないリスク、不確かさその他の要因が、将来の展望に対する表明に含まれる事柄と異なる結果を引き起こさないとも限りません。当社は、将来の展望に対する表明、予想が正しいと約束することはできず、結果は将来の展望と著しく異なることもありえます。

本資料における将来の展望に関する表明は、平成30年3月22日現在において利用可能な情報に基づいて、当社により平成30年3月22日現在においてなされたものであり、将来の出来事や状況を反映して将来の展望に関するいかなる表明の記載をも更新し、変更するものではありません。

貴金属表面処理加工分野の  
リーディングカンパニー  
**株式会社 山王**

(3441・東証JQS)